ChkData.csv(チェックデータ)、Sinsa.csv(審査対象)、Omit.csv(誤判定病名)、Heiyo.csv(併用設定 )の４つのファイルが作成されます。

項目仕様（チェックデータ MRC1600T） 出力ファイル名：ChkData.csv

(1)診療行為コード(SCD)・・・612140159など

(2) 連番(RENNUM)・・チェック文字のソート順、FUGAは古い順、OWLは新しい順

(3)グループ区分(GRP\_TYPE)・・・複数病名対象のグループ番号

(4)チェック文字(CHKSTRING)・・・学習データ

(5)データ区分(DT\_TYPE)・・・1=追加、2=削除

(6)表示順・・・FUGAで使用

項目仕様（審査対象 MRC1700T）　出力ファイル名：Sinsa.csv

(1)診療行為コード(SCD)・・・612140159など

(2)入院外区分(G\_TYPE)・・・1=審査対象、0=審査対象外

(3)入院区分(IMP\_TYPE)・・・1=審査対象、0=審査対象外

項目仕様（誤判定病名 MRC1900T）　出力ファイル名：Omit.csv

(1)診療行為コード(SCD)・・・612140159など

(2)連番(RENNUM)・・・FUGAで使用

(3)病名(D\_NAME・・・誤判定の病名文字

(4)削除区分・・・1=削除

項目仕様（併用設定 MRC2000T）　出力ファイル名：Heiyo.csv

(1)診療行為コード(SCD)・・・612140159など

(2)診療行為コード(SCD2)・・・併用のコード

注）

MRC2000T・・・ (OWL)\_テーブル定義書\_FUGAの物理テーブル名

SCD・・・(OWL)\_テーブル定義書\_FUGAのNAME